

夏秋キュウリ（露地栽培）の病害虫の発生状況（7月中下旬）

1 ベと病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。多湿条件が続くと発病しやすくなるので、発生初期から防除を実施してください。

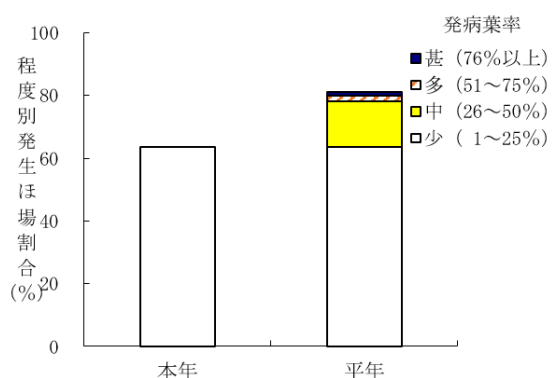


図1 ベと病の発生状況

2 うどんこ病

巡回調査では、発生は見られませんでした（図2）。まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施してください。

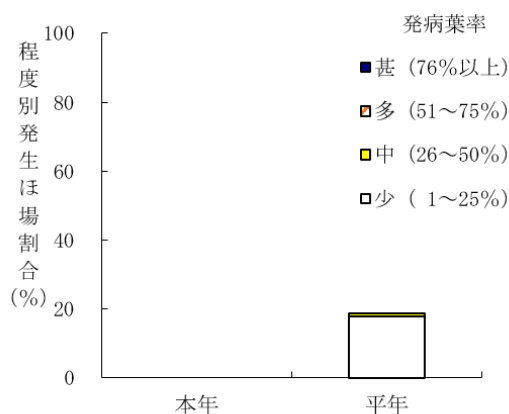


図2 うどんこ病の発生状況

3 炭疽病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。まん延すると防除が困難となるので、り病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

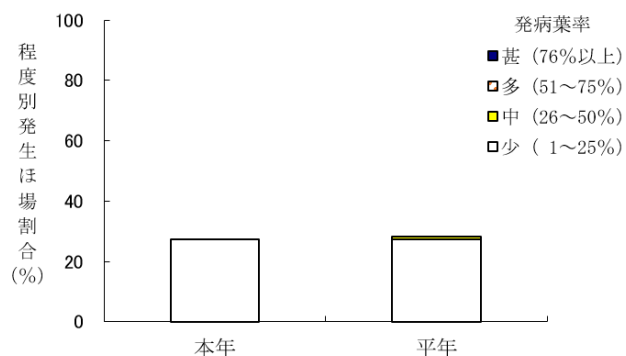


図3 炭疽病の発生状況

4 褐斑病

巡回調査では、発生は見られませんでした（図4）。まん延すると防除が困難となるので、発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。また、被害茎葉残さは、必ずほ場外に持ち出し処分してください。

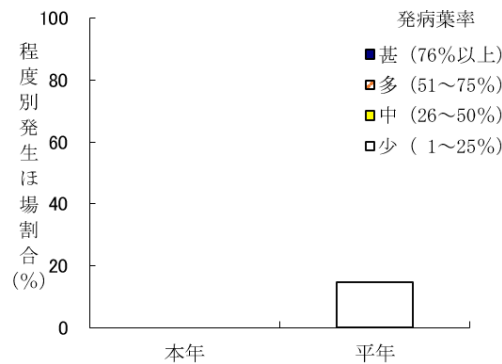


図4 褐斑病の発生状況

5 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。ほ場をよく観察し、発生がみられた場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

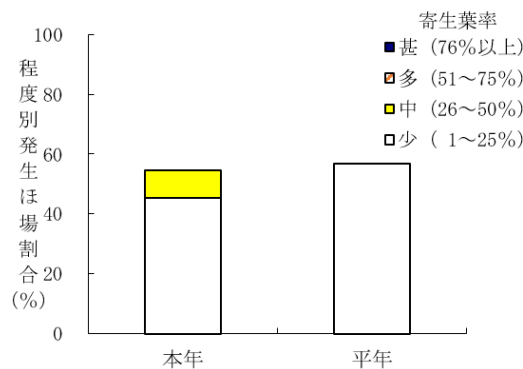


図5 アブラムシ類の発生状況

6 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でしたが、一部で寄生葉率の高いほ場が確認されています（図6）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

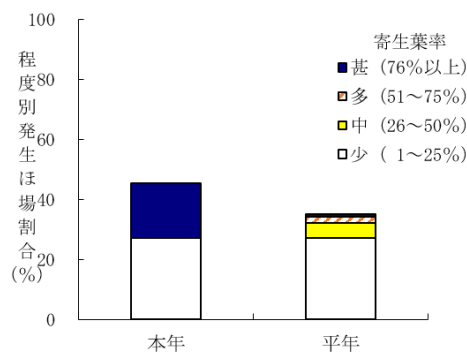


図6 ハダニ類の発生状況

7 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図7）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤抵抗性の発達を防止するため、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

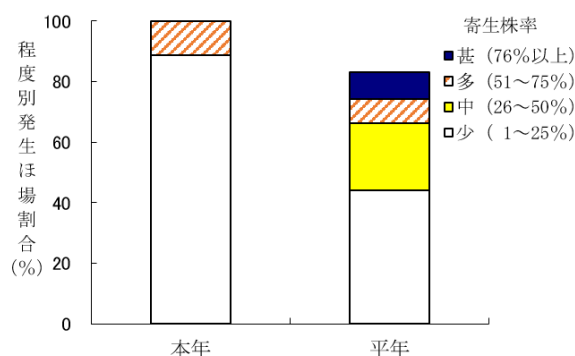


図7 アザミウマ類の発生状況

注意が必要な病害虫

■カメムシ類、カスミカメムシ類

7月中下旬に実施した夏秋露地きゅうりの巡回調査では 11 ほ場中 8 ほ場でカメムシ類、カスミカメムシの寄生が確認されています。また、11 ほ場中 3 ほ場ではカメムシ類によると考えられる果実の被害が発生しています。

今後、高温条件で、さらに発生量が増加する可能性がありますので、ほ場をよく観察し、発生時の薬剤防除を徹底してください。



写真1 キュウリ果実での吸汁痕



写真2 キュウリ葉上でふ化するクサギカメムシ幼虫

※ 夏秋露地きゅうりの巡回調査では、下記の 11 ほ場を調査しています

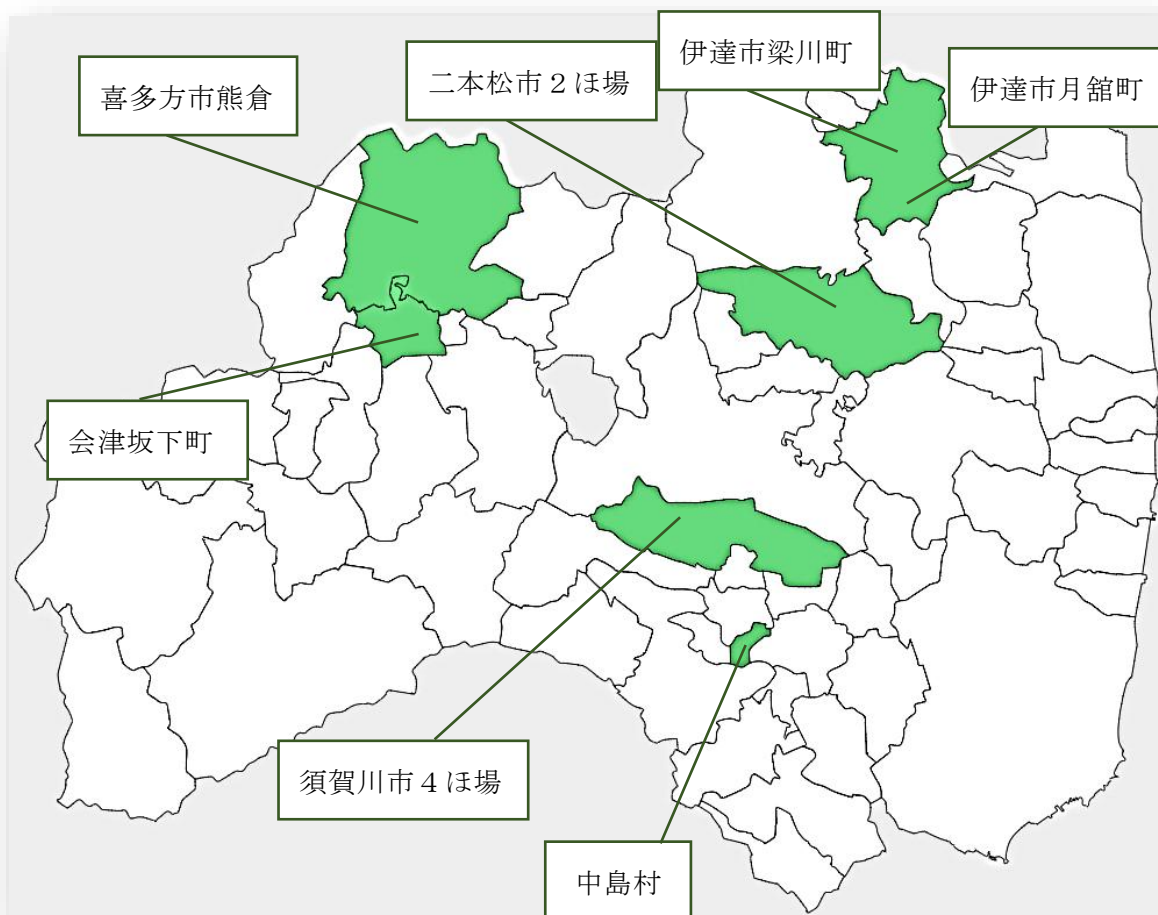


図 キュウリの巡回調査地点

※網掛け：夏秋キュウリの巡回調査地点。6 市町村、11 地点

● 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp